

2016年1月 日本ラート協会

IRVシルホイール競技採点規則2015

2015 IRV CYR Wheel Code of Points - version1.0 和訳



目次

A シルホイール競技規則	3ページ
A1 規定演技（曲なし）	3ページ
A1.1 必要条件	3ページ
A1.2 採点（規定演技）	3ページ
A2 自由演技（曲付き）	4ページ
A2.1 必要条件	4ページ
A2.2 採点（自由演技）	5ページ
B 審判員の責務	5ページ
B1 主審	5ページ
B2 実施審判	6ページ
B2.1 採点基準	6ページ
B2.2 運動（ユニット）の範囲	6ページ
B2.3 減点	6ページ
B3 芸術審判	7ページ
B4 難度審判	8ページ
B4.1 評価基準	8ページ
B4.2 難度基準	8ページ

A シルホイール競技規則

1. 規定演技（曲なし）
2. 自由演技（曲付き）

競技エリア 13.5×13.5m

安全エリア 17.5×17.5m 競技エリアから両側に2m追加

A1 規定演技（曲なし）

A1.1 必要条件

1. 選手は合計10運動を行わなければならない。
2. 選手は10運動を自由に選ぶことができる。
3. 選手はベーシックステップ/ワルツ、大斜転、小斜転をそれぞれ2運動以上行わなければならない。
4. 1運動として承認されるには
 - ・ ベーシックステップ/ワルツ 連続3～5回転
 - ・ 大斜転 連続で2回転以上
 - ・ 小斜転 3～5秒間
5. ターン、ツイストの運動は難度が承認される為には2回転行う必要がある。
技によって運動と運動の間に1～2回転の追加の回転を加えることが認められる（IRVホームページ記載「difficulty catalogue」参照）。
6. 運動と運動の移行の間に、ベーシックステップ/ワルツ、小斜転、大斜転それぞれ3回転を入れることができる。それらは、難度点としてカウントされないが実施減点は課される。
7. 最終得点は実施点と難度点で構成される。芸術的な要素は判断されない。
8. 選手は競技の前に書面にて演技構成を提出しなければならない。
9. 選手は書面に書かれた演技構成通りに行わなければならない。異なる場合1.0点減点される。（書面に書かれた運動が行われていない、または別の技を行った場合）
10. 選手はリングから降りることはできない（落下とカウントされる）。
11. 最大の難度点の難度の組み合わせ。
B難度5運動
C難度4運動
D難度1運動 $(5 \times B + 4 \times C + 1 \times D = 5.2 \text{点})$
12. 規定演技で落下した場合、難度の認証を得るために繰り返し行うことができる。
この場合、落下に対し減点0.8点が行われ、繰り返しの演技から実施の採点が行われる。
13. 選手が必要以上の難度（E難度も含む）を行う場合、高い難度は低い難度に振り替えることができる。高い難度が不足した場合、低い難度は不足分として振り替えが行われる。
14. リングに触れ、制御できる状態で終了しなければならない。

A1.2 採点（規定演技）

A1.2.1 実施

1. 実施審4名もしくは2名からなり、それぞれ最高10点から採点する。
2. 最高得点と最低得点は切り捨てる（4名の場合）。
3. 残り2つの得点の平均が最終得点となる。
4. 実施審が2名の場合は2つの得点の平均が最終得点となる。

A1.2.2 難度

1. 難度審（2名もしくは1名）は選手から提出された書面と照らし合わせ、採点する。
2. 難度の最終得点は10運動の難度の合計である。

A1.2.3 主審

1. 主審は選手に開始の合図を送る。
2. 主審は選手が安全エリアを出た場合、競技を中断させる。
3. 主審は最終得点を計算し、発表する（実施点と難度点の合計は最大15.2点）。
4. 主審は議論の必要がある場合、審判を呼び集め、議論する責任がある。

A2 自由演技（曲付き）

A2.1 必要条件

1. 選手は以下を含む、少なくとも10運動を行わなければならない。
 - ・ ベーシックステップ/ワルツ 1運動以上
 - ・ 大斜転 1運動以上
 - ・ 小斜転 1運動以上
2. 選手は運動を自由に選ぶことができる。
3. 1運動として承認されるには
 - ・ ベーシックステップ/ワルツ 連続3～5回転
 - ・ 大斜転 連続で3～5回転
 - ・ 小斜転 3～5秒間
4. ターン、ツイストの運動は難度が承認されるためには2回転行う必要がある。技によって運動と運動の間に1～2回転の追加の回転を加えることが認められる（IRVホームページ記載「difficulty catalogue」参照）。
5. E難度の承認は1回行う必要がある。
6. 運動と運動の移行の間に、ベーシックステップ/ワルツ、小斜転や大斜転を入れることができる。難度はカウントしないが実施の小減点は実行される。
7. 自由演技では難度の数に制限はない。選手は難度を承認されるために（落下などで）運動を繰り返し行ってもよい（これは芸術的にマイナスな影響を与える可能性がある）。
8. 演技時間は2分45秒（±15秒）。
9. 自由演技ではリングから降りることや、離れることができる（回数制限なし）。
10. 演技の演出での床への接触は認められるが、それ以外の場合は落下と判断される。技によって、床に触れるものは「difficulty catalogue」に記載されている。
11. 演技の終了時、床への接触から5秒以内に最終ポーズをとらなければならない。
12. 選手は競技の前に書面にて演技構成を提出しなければならない。これは難度審が判断するための補助として使われる。
演技する予定の全ての運動を記載しなければならない。
13. 選手が書面と異なる演技を行っても減点にならない。
14. 最も高い難度の10運動が難度点として算出される。
15. 選手は自由演技に対し、運動（技）の選択、楽器演奏や声ありの曲（歌詞が過激ではないもの）選択、衣装の選択（あまりにも緩すぎない適切なもの）、振付の選択など自由に選ぶことができる。
16. 自由演技の評価基準は芸術点、難度点と実施点である。
17. 選手は、芸術的要素と難度をバランス良く演じなければならない。芸術要素と同時に実施要素が入っている場合、できるだけ実施要素を綺麗に行わなければならない。
18. 音楽はUSBかCDの媒体で取り扱われる。

A2.2 採点（自由演技）

A2.2.1 芸術点

1. 芸術審4名もしくは2名からなり、それぞれ最高10点で採点する。
2. 最高得点と最低得点は切り捨てる（4名の場合）。
3. 残り2つの得点の平均を芸術点の最終得点とする。
4. 芸術審が2名の場合は2つの得点の平均が最終得点となる。

A2.2.2 実施

1. 実施審4名もしくは2名からなり、それぞれ最高10点で採点する。
2. 最高得点と最低得点は切り捨てる（4名の場合）。
3. 残り2つの得点の平均が最終得点となる。
4. 実施審が2名の場合は2つの得点の平均が最終得点となる。

A2.2.3 難度

1. 難度審（2名もしくは1名）は最も高い10個の運動から算出する。
2. 各運動の特定の技術的な基準が満たされたかどうかを判断する。

A2.2.4 主審

1. 主審は選手に開始の合図を送る。
2. 主審は選手が安全エリアを出た場合、競技を中断させる。
3. 主審は最終得点を計算し、発表する。
芸術点（最高得点10点）、実施点（最高得点10点）、難度得点の合計。
4. 主審は議論の必要がある場合、審判を呼び集め議論する責任がある。

B 審判員の責務

B1 主審

1. 主審は開始の合図を手信号で選手に伝える。
 - a. 規定演技：選手は演技終了まではリングから降りることはできない。
 - b. 自由演技：自由演技は曲の開始で始まる。選手は5秒以内にリングに触れなければならない。選手は最終ポーズに曲が終わる前の最大5秒間を使用することができる。
2. 主審は自由演技時間の2分45秒（±15秒）であるか確認を行う。
3. 主審は選手が安全エリアを出た場合演技を中断させる。
4. 中断後の続行
 - a. 規定演技：落下や安全エリアから出る中断の場合、選手は演技を続ける前にリングの再配置をしてもよい。コーチは選手に支援や会話を行うことができる。選手は30秒以内に演技を続行しなければならない。選手は構成のリズムに戻るために余分な回転を追加することができる。審判は完全な動作に入るまで採点を行わない。
 - b. 自由演技：自由演技の場合は音楽が終わるまで中断されない。選手は演技を続行しなければならない。
5. 主審はリングが競技エリアの外に出たことを審判員に通知する。
6. 選手が3回の大減点をした時点で、主審は審判員に採点の中止と選手に演技の中止を知らせる。たとえ演技が続けられていても中止させる。

7. 主審は実施審に演技時間についての減点を通知する（時間が短すぎるもしくは長すぎる）。

1秒から5秒	0.2点
6秒から10秒	0.5点
10秒以上	0.8点
8. 主審は選手が中断後30秒以内に演技を続行しなかった場合、審判員に採点を停止する通知をする。
9. 主審は最終得点の計算と発表を行う。

B2 実施審判

B2.1 採点基準

1. 実施審判は以下の基準によって採点を行う。
 - a. 運動の完成度
 - b. 運動の質
 - c. 技巧
 - d. 姿勢
 - e. 床との接触（技の失敗による接触/ただし、自由演技での床に降りる演出を除く）
 - f. 落下
 - g. 競技エリアを出る
2. 技術的な欠点に対して採点を行う。
3. 実施審判は技が完全に行われたかどうかということでは採点をしない。
 - a. 例：自由演技の中で、選手が3～5回転しなければ運動数として認められない技で2回だけ行った場合、実施審判は採点を行い、難度審判は運動(難度)として認めてはいけない。
 - b. 規定演技において、選手が3～5回転しなければ運動数として認められない技で2回転だけ行った場合、難度審判は1.0点減点するように実施審判へ伝える。
(ただし、その運動の小減点もしくは中減点はカウントされない)
4. 実施審判は演技が音楽に合っているかどうかということでは採点をしない。

B2.2 運動（ユニット）の範囲

演技は以下の場合で区分され、実施減点（小減点、中減点、大減点）が行われる。

- ・ 技と技との移行
- ・ 選手がリングの外にでる（降りる）
- ・ 演技 開始/終了（規定演技終了の立ち姿勢でのポーズ、自由演技終了のポーズ）

B2.3 減点

1. 小減点（0.1～0.2の減点、1運動につき最大0.5点まで）
 - a. 頭、手、腕、腰、脚、足などの姿勢
 - b. リングのわずかな停止（自由演技時の振りとしてのリングのわずかな停止を除く）
 - c. 演技終了時のバランスの欠如
 - d. 競技エリア内において、選手がリングに乗っていない状態でのリングの不制御。
 - e. 自由演技において演技時間の過不足（1～5秒）。
 - f. 固定0.2減点
 - ・ バリエーションの欠如（繰り返し毎）
 - ・ 競技エリアを出る
 - ・ 規定演技において演技終了の立ち姿勢でのポーズの欠如
 - ・ 自由演技終了のポーズの欠如

2. 中減点（固定0.5点減点：1運動につき中減点1つ。同じ運動中に更に中減点、小減点は加算されない）
 - a. 落下、転倒を避けるために、手や足で支える。
 - b. 選手がリングに乗っていない時のリングの制御不足によるリングの転倒。
 - c. 選手がリングに乗っていない時にリングが安全エリアから出る。
 - d. 演技終了時のリングの落下やコントロールの欠如。
 - e. 演技に必要な運動の欠如（1運動毎）。
 - f. 自由演技においての運動の回転数または長さが短い（1運動毎）。
 - g. 自由演技において演技時間の過不足（6-10秒）。
 - h. 例外：もし、リングが安全エリアを出た場合、中減点に加えて小減点を加えることができる。（この場合、選手は停止して競技エリアに戻らなければならない。自由演技の最中であっても音楽は流れ続ける）
3. 大減点（固定0.8点減点：1運動につき大減点1つ。同じ運動中に更に中減点、小減点は加算されない）
 - a. 落下。
 - b. 補助される。
 - c. 自由演技においての時間超過（10秒を越える）。
4. 1.0点の減点
 - a. 規定演技において運動の欠如、認められていない技を行った場合。

B3 芸術審判

1. 各芸術審判は各項目2点ずつ、合計10点から採点する。
 - a. 音楽性（2.0点）
 - ・ 音楽との調和
 - ・ 音楽と演技のねらいとの関係性
 - ・ 選曲
 - b. 演出（2.0点）
 - ・ 表現
 - ・ 存在感
 - ・ 個性（キャラクター）が保たれているかどうか
 - c. 動きの質（2.0点）
 - ・ 演技の安定感
 - ・ 細部への気配り
 - d. 音のつながりや変わり目（2.0点）
 - ・ 音の変わり目の流れ
 - ・ 流動性
 - ・ 演技のまとまり
 - e. 全体の評価（2.0点）
 - ・ 音楽、衣装、演技の趣旨（意図）の関係性
 - ・ 技術性と芸術性のバランス
 - ・ 感動を与える演技かどうか

音源の質：レコーディングの技術的なミスは0.2点の固定減点となる。

B4 難度審判

B4.1 評価基準

1. 各運動で、技術的な基準が満たされているかどうかを判断する。
2. A. B. C. D. Eの難度を数える。
3. 小斜転の角度が20度よりも低い角度かどうかを確認する。（難度の昇格）
4. 選手が提出した構成のとおり運動が行われたかどうかを確認する。
5. 規定の運動が演技中に行われたかどうかを確認する。
6. 運動が成立されたかどうかを判定する。
7. 規定演技において：演技内での難度を判定し、難度点を算出する。
8. 自由演技において：演技内で難度の高い10運動を選び、難度点を算出する。

B4.2 難度基準

1. A. B. C. D. Eの5種類の難度がある。
 - ・ A難度：0.2点
 - ・ B難度：0.4点
 - ・ C難度：0.6点
 - ・ D難度：0.8点
 - ・ E難度：1.0点
2. 運動と難度は、難度表を参照。
3. 選手は、難度表に記載されている運動から選出する。難度表に記載されていない運動は全てA難度としてカウントされる。
4. 自由演技において、選手は希望する運動を行うことができるが、難度表に記載されていない運動は難度点としてカウントされない。

監修：日本ラート協会
編集・和訳：技術部員 松本陽一、吉川泰昭
協力 早田弘樹、湧田舎大